




新風会会派研修報告

室戸ジオパーク・廃校水族館・今ノ山風力発電

提出者 永野裕夫 

研修時期 2月15日(土)～16日(日)

目的 今後の市政の重要課題についての研修

ようこそ室戸世界ジオパークセンターへ
Welcome to Muroto Global Geopark Center

室戸ジオパークに学ぶ

平成19年に世界ジオパークに認定により室戸地区の交流人口の拡大増加を図ることを重要課題とし地域の活性化、観光入込人口の増進そして町全体の観光振興を通して固定人口増を図ることを目的としている。

室戸ジオパークの特徴

ご存知の通り室戸市は高知県の東部に位置し特に室戸半島はプレート運動に伴う大地の変動が記録されている。よって新しい大地の誕生を実感できる海と陸の出会い、新しい大地が誕生する最前線でのプレート運動によって形成された付加体や海成段丘など地質や地形隆起などの地質変化を特徴としそのことが経験できるジオパークである。



今後の本市のジオパークの課題

本市もジオパークの認定に向けて2度の申請を行ったが、本年度令和2年度は認定の確実性を高めたうえで令和3年度の申請に向けた取り組みをするため本年度の申請は見送ることとし承認された経緯がある。

しかし、土佐清水市も室戸に負けないくらいの資源があり、テーマである大地の成り立ちでは、黒潮に向かって突き出す大地足摺岬や、黒潮がもたらす自然起伏に富んだ海底隆起現象。海流がぶつかり海底の栄養分が巻き上げられ海洋生物が暮らす海が広がりその海で黒潮が運んだ人と文化が調和し昔から黒潮とともに生きた文化があります。このうえない自然がありますが、確かに海と海底地質についての事では室戸に負けてはいませんが、しかし今回の研修で室戸に学んだのは自然を生かして現在の南海地震に備え海洋地震探知機を海中に埋めて自然だけでなく海底での先進科学も推進する近代的な発想には室戸ジオパークに学ぶことは多いと認識を新たにしました。

室戸廃校水族館の発想に学ぶ。

室戸市の椎名小学校から子供たちの声が消えてから12年たちました。再び2018年『子供達の声や笑顔がもどって来ることを思い』室戸廃校水族館を作りました。この言葉がすべてです。何とか町を元気にしたいその発想に敬服しました。



屋外プール水槽や教室水槽。立派ではないけど小さい子供たちの歓声が。



年中無休毎日が参観日らしいです。

今ノ山風力発電事業

現在今ノ山の風力発電には2社の会社が風力発電を計画しているということで今回は日立サステナブルエナジーとの勉強会を開催していただいた。

※現在の進捗について

現在は方法書という段階で住民意見を聞く段階であり調査、予測、評価を行い、その結果を準備書として縦覧し評価書としてまとめる段階であるということ。

※今後においては

調査、予測評価、準備書、評価書、事後調査、報告書の順序

※計画規模概要

土佐清水市、三原村、最大9基予定

※発電概要

出力最大4200kW程度

高さ最大149.9M

説明の中では、大気質や騒音低周波についての内容も聞き、なおかつ水質や動物、鳥類、爬虫類、魚類、植物生態系などへの対処計画など詳細にわたり説明を受け、説明内容についてはほぼ納得を得た。

今後の事業について

まだまだ初期段階ではあるがこの風力発電事業は私が議員なり立てのころから論議され計画事業者も数社入れ替わるなど、中々実現できない案件であるが、これからの動向を注視していきたいと考える。